

## 消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

### 【事故概要について】

1. 事故・ヒヤリハットの別	事故
2. 体験した事例の名称	濃煙による視界不良を想定した屋内検索訓練中、通水したホースを踏んで右足首を受傷した事案
3. 体験した事例の中心的要素	面体着装及び防火ヘルメットの上から土嚢袋を被っての屋内検索訓練。屋内進入隊員は3名で当事者は3番員を担当。1番及び2番員は熱画像直視装置及び筒先をそれぞれ携行して進入し、3番員は2番員の後方から前線指揮及びホース補助で進入する。充水した50mmホースを延長補助中、開始位置から約10mの位置でホースを右足で踏み、転倒しないよう踏ん張ったところ、右足首外側を受傷。独歩不可能となった。
4. 体験した事例の原因・理由	訓練前の準備運動を実施していなかったこと。 足元に通水ホースがあるときの危険要因を考えずに活動をしていたこと。

### 【体験した事例の直接的原因について】

1. 体験した事例の直接的な原因	行動の実行に問題があった。(誤った手順を取った等)
------------------	---------------------------

### 【体験した事例について】

1. 発生日時	令和3年9月26日 午前10時頃
2. 発生した当時の天候	わからない
3. 発生した活動現場	屋内: 消防本部指令センター1階車庫内
4. 体験した事例の種類	回答者が、自分自身で負傷した。
5. 事故の程度(ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度)	軽傷の怪我
6. どのようなことが起きたのか(起きそうになったのか)	転倒
7. 事例体験時の活動	演習訓練、[ 火災 ]
8. (7の活動中)どのような作業中に発生したか	ポンプ隊訓練
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）



○当事者A	年齢[31]歳、勤続年数[13]年、現場経験年数[13]年、階級[消防士長] 同様の活動 [1年に数度]、任務 [隊員]
○当事者B	年齢[38]歳、勤続年数[19]年、現場経験年数[19]年、階級[消防司令補] 同様の活動 [1年に数度]、任務 [隊員]
○当事者C	年齢[20]歳、勤続年数[2]年、現場経験年数[2]年、階級[消防士] 同様の活動 [1年に数度]、任務 [隊員]
○その他(当事者が4人以上の場合)	

11. 事例発生の経過。



	誰が(何が)	なにをした	その他・備考など
経過1	A、B、C	訓練開始	
経過2	A、B、C	面体着装	さらに防火ヘルメット上から土嚢袋を着装
経過3	A、B、C	屋内進入開始	
経過4	B	熱画像直視装置を携行して進入	
経過5	C	筒先を保持して進入	ホース通水有り 放水無し
経過6	A	Cの後方でホース延長補助 無線で指揮隊への内部状況の伝達	低い姿勢での活動
経過7	A	ホース延長補助中に右足でホースを踏んだ	
経過8	A	バランスが崩れ、体勢を立て直そうと踏ん張る。その際、足が挫いた状態で踏ん張った。	
経過9	A	右足に痛みが走ったため、訓練担当者へ報告	
経過10	A、B、C	訓練中止	
経過11	A	救急隊で屋外搬送及び観察実施。 三角巾で固定及びアイシング処置。	その後、病院受診し、右足首外側捻挫の診断。
経過12			

【その事例発生時の状況について】



- 事故の場合：事故が起きたのはどうしてだと思えるか？
- ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思えるか？

体力、反射神経等身体能力が劣っていた 危険情報を把握、予見できなかった 集中力、注意力がなかった 周囲の視界が確保できていなかった 足元の安全が確保できていなかった

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	はい
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・活動終息(鎮火等)や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境(雨・濃煙)によって視界がさえぎられた。

・障害物(建物等)のため周囲の状況が見えなかった。	はい
・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため周囲の状況が見えなかった。	はい

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった(寒かった)。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった(適切な指示を与えられなかった)。

・活動指示が得られなかった。(無線が通じない等。)	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。(周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。)	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

訓練前の準備運動が不足していた。
------------------

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

部隊及び署全体ではKYT訓練を実施し、火災、救急及び救助等の活動においての起こりうる危険について検討した。各隊で危険要因及び対策を協議し、活動時の注意点を共有することができた。また訓練の大小にかかわらず、事前の準備運動を徹底改善した。  
個人では、屋内進入訓練の基本的なところから実施し、事故時と比較して活動のあせりを感じにくくなった。今後も定期的に訓練を実施し、継続していく。

○装備・資機材の対策について

○活動環境の対策について

○指揮・情報伝達の対策について

# 活動隊形写真



前方から撮影



後方から撮影